

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.31

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年10月18日 文責:安生昌弘

◆ 2年目の『新・運動会』

新しい形に進化させた2年目の船引小学校運動会が成功裏に終了しました。子ども達の躍動する姿は如何(いか)でしたか。

学校代表の5・6年生による開会式、スポーツ委員長、佐久間君の挨拶で運動会が始まりました。幕開けは4年生です。『つむどんどん!?』大量の箱の準備の訳が分かりました。次は2回目の運動会になる2年生です。自分の背より大きい玉を友達と協力して正確に転がすことができました。そして、初めての運動会の1年生。今年も6年生から「かわいい!」と声の上がる『チェッコリ玉入れ』です。可愛らしさがあふれていました。午前の部最後は3年生です。中学年になって半年で、力強く100mを走りきったり、4人で協力してボールを運べるようになりました。午後は鼓笛パレードで再スタートです。広い場所で隊形を変えながら演奏を合わせるのは結構大変なのですが、素晴らしい演奏でした。5年生の150m走や綱引き、係の仕事ぶりには、来年の最高学年への気概が感じられました。締めくくりは一日中、会を支え盛り上げてくれた6年生の借り物競走でした。学級や学年の仲の良さが随所に出ていました。久し振りの紅白リレーも頑張りました。下学年は一人が100m、上学年は200mを走ることは広い校庭の船小ならではの事です。「さすが選手!」という走りでした。



コロナ禍の制限された生活が子ども達の心に影響を及ぼしていることは否(いな)めませんが、それでも学校生活の中で子ども達は案外元気で、楽しく学校生活を送っています。その様子が運動会にも表れていたように思います。「コロナなんかには負けないぞ」という、たくましい姿を多くの方々に見ていただいたと感じています。子ども達みんな、よく頑張ったね。そして、保護者の皆様、近隣4区の徒歩来校や分散しての見学に協力いただき、ありがとうございました。

◆ 子どもの失敗を子育てに活かす

先日、観ていたテレビドラマにこんな場面がありました。ある小学生がスマホゲームで年齢を偽り、母親のクレジットカードから18万円以上の課金をしてしまいました。法的手段をとれば戻ってくるとのことでしたが、母親は、それを断り、半額は子どもの小遣いから数年かけて払わせ、残り半額は母親自身の監督不行き届きとして弁済しました。



自分の身を切りながら、子どもに責任の取り方を教えたのです。

子どもは、たくさんの失敗を繰り返します。でも、失敗のたびに反省と責任をとることを積み上げると徐々に節度を守ることができるようになっていきます。子どもの失敗や問題行動が分かったら、ある意味で子育てのチャンスです。失敗や問題行動を見逃したり、見過ごしたりしてしまうのは、惜(お)しいことなのかも知れません。



学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。